

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	03	174360	観光ルート整備事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興	
	施策	03	移動しやすい観光地			
目的	観光客の利便性向上のため、二次交通の充実と市内回遊性を高める事業に対し支援を行う。					
対象	観光客					
意図	温泉地や観光地へ向かう観光客の交通手段を確保し、利便性の向上を図る。					
事業概要	花巻温泉郷共同送迎バス運行支援 9,100千円 花巻温泉郷が共同運行する、JR新花巻駅～各温泉施設の無料送迎バスの運行支援 どんぐり号、やまねこ号運行支援 2,430千円 花巻市内の主な観光施設を巡るツアーの運行支援 団体旅行貸切バスツアーの運行支援 8,910千円 市外及び海外からの団体旅行貸切バスツアーに対する支援					
市民参画の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	どんぐり号、やまねこ号運行日数（年度）	日	計画	300.00	300.00	
			実績	120.00	135.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	観光環状バス等の利用者数	万人	目標	5.60	5.60	
			実績	2.33	1.66	
2	団体旅行貸切バスツアー運行支援を受ける貸切バス台数	台	目標	500.00	500.00	
			実績	93.00	297.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染拡大の影響による観光客の減少により、無料シャトルバス等の利用も低迷した。また、観光客アンケート調査より、コロナ禍によるマイクロツーリズムの傾向から、自家用車で移動される方が多いことも一因と考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	バス路線等の二次交通が充実していない現状においては、観光客の利便性向上のため支援を行う必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	観光客のニーズに合わせツアーのコース設定等を随時見直すことで、集客を高めることができる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業内容を随時見直しする中で、関係者からの意見等も踏まえながら事業費や人件費を精査しており、いずれも削減余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	観光振興は観光客・観光事業者はもちろん、宿泊・交通・物産・飲食事業者等、受益者は多岐にわたる。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	花巻温泉郷への無料送迎バスの運行支援や「どんぐり・やまねこ号」による観光地を巡るツアーへの支援により、観光客の利便性を向上することができた。また、団体バスツアー支援については、令和2年度の約3.2倍の利用実績があり、利用台数の80%を教育旅行が占めていたことから、教育旅行の誘致につながった。
	次年度に向けて	二次交通の充実と市内回遊性を高めることは、温泉地や観光地へ向かう観光客の利便性が向上され、満足度向上やリピーター確保につながることが期待されることから、関係機関と一体となって、より魅力的なコース設定の見直しに取り組む。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	07	01	03	174390	観光案内板整備事業費	
総合計画	分野	01	しごと	政策	04 観光の振興	
	施策	03	移動しやすい観光地			
目的	観光客の利便性向上のため、観光案内板の新設・更新等を進める。					
対象	観光客					
意図	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすいような環境を整備する					
事業概要	観光案内看板現地調査及び台帳整備 4,808千円 観光課所管の「観光案内看板」や「標柱」の位置、表記されている案内の内容、設置年数など全て把握ができていないほか、過去の台帳を利用して管理しているため、更新されていないものが多数あることからR3年度に全体的な現地調査及び台帳を整備。GISに調査データを入力し、管理運営を実施。構造上危険なものや、路線の変更、施設の改廃等により整備が必要なものについて、撤去、変更、新設を順次行う。(案内板耐用年数10年) 現地調査をした際に、既存案内標識の劣化度や表示内容の修正、多言語化も含めた優先度を決め、撤去、改修、新設を順次行うための計画を策定。					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	案内板の撤去、変更、新設	件	計画	4.00	0.00	
			実績	4.00	0.00	
2	案内板の現地調査及び台帳整備	箇所	計画		250.00	
			実績		250.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	案内板表示に満足した観光客の割合【観光客アンケート】	%	目標	90.00	90.00	
			実績	87.00	91.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	概ね目標値どおり	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
今年度は案内板の現地調査及び台帳整備を行い、案内板の修繕を実施できなかったが、観光客へのアンケート調査で観光案内板への満足度が指標値を達成できたことは、これまで案内板を修繕してきた実績が実を結んだものと思われる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、観光立市の実現を目指す市の責務である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	観光客がスムーズに移動できる環境は時間的余裕を創出し、市内の回遊性向上が期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業が進めば削減の可能性があるが、現状では多くの案内板の整備が必要であり、事業費や人件費の削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	観光客が移動しやすく、市民が案内しやすい環境を整備することは、更なる交流人口の拡大が期待でき市全体に受益を及ぼす。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	観光案内板の台帳を整備したことで物件に優先順位を付け修繕する流れを作ることができ、今後の方針を決めた。
	次年度に向けて	令和3年度は案内板の台帳を整備したため、今後は整備計画の優先度に応じて修繕・撤去を進めていく。